

## (仮称) 草津市読書のまち推進計画の策定について

### 1. 策定の主旨・背景

人生100年時代を迎え、生涯学習による生きがいづくりや、多様な幸せを感じられる社会の実現が求められている中、読書は考える力を身につけ、感性を豊かにして生きる力を育みます。

こうしたことから、市民誰もが読書に親しみ、生涯にわたり学び心豊かに過ごすことができるよう、乳幼児から高齢者まで全ての市民を対象とした具体的な読書活動推進の指針となる「(仮称) 草津市読書のまち推進計画」を策定します。

なお、令和6年度に計画期間終了となる「草津市子ども読書活動推進計画」と「草津市の図書館運営計画」を当計画に統合します。

### 2. 計画期間

計画期間は、令和7年度から令和11年度までの5か年とします。

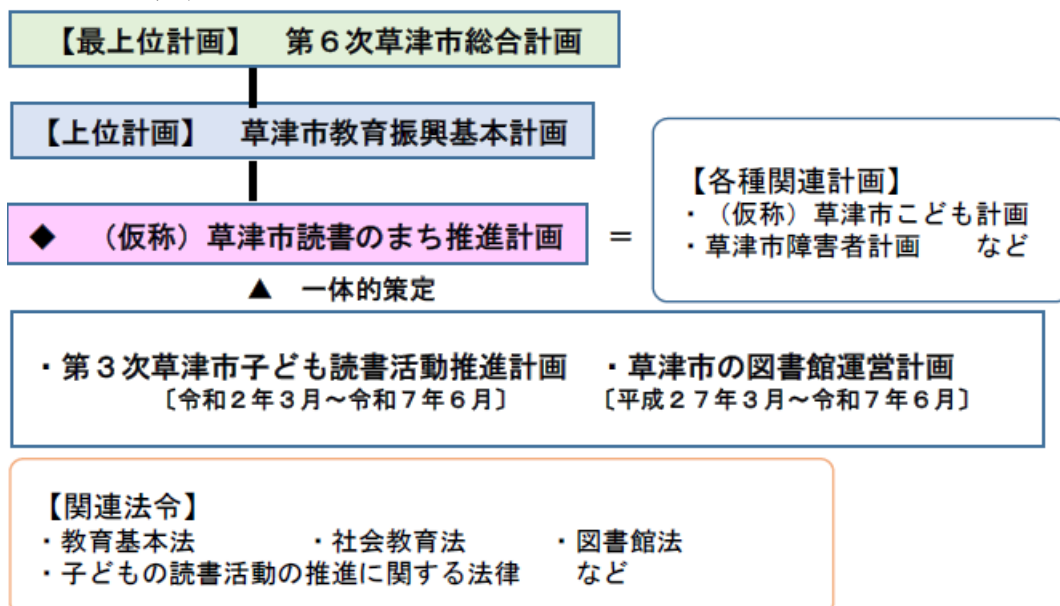
### 3. 策定にあたっての視点

本市における子どもの読書活動の推進に関する取り組みや方向性を示す計画として位置付けている、「草津市子ども読書活動推進計画」については、乳幼児から18歳までを対象としており、また、図書館の方向性を示す計画として位置づけている、「草津市図書館運営計画」は、図書館運営、図書館サービスのあり方を対象としています。

今回、策定する「(仮称) 草津市読書のまち推進計画」におきましては、全世代への読書活動の推進および全市域に読書活動の場を広げるため、関連する計画や法令等を踏まえ策定を進めます。

なお、「草津市子ども読書活動推進計画」および「草津市図書館運営計画」を令和7年6月末までの3ヶ月間の延長を行います。

#### (1) 計画の位置づけ



## (2) 読書環境を取り巻く現状・課題

### ○国の動向

- ・第5次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の策定  
(令和5年3月)
- ・視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律  
(読書バリアフリー法)の制定(令和元年6月)

### ○社会情勢、読書環境の変化・課題

#### 《社会情勢・読書環境の変化》

- ・急速な高齢化の進展
- ・ライフスタイルの多様化
- ・各種媒体のデジタル機能の進展

#### 《課題》

- ・多様な子どもたちの読書機会の確保
- ・児童・生徒の不読率の上昇
- ・成人の読書量の低迷
- ・人口増に比した図書館の新規利用者数の伸び悩み

## (3) 計画策定にあたっての視点

本計画は、読書活動を推進していく上で必要な施策を明記するとともに、市、教育委員会および学校、地域との連携の基盤となりうるものとし、以下の視点を基本とし策定を行います。

1. 乳幼児から高齢者までの全ての世代に対応した読書活動の推進
2. 市域全体での読書環境の整備
3. 身近に読書を楽しむ機会の創出

## 4. 策定に向けた体制

学識経験者1名、関係団体の代表者等11名、公募委員3名で構成する草津市読書のまち推進計画審議会を設置し、専門的な・多角的な議論を経て、教育委員会の諮問に応じて計画(案)を策定します。

## 5. 市民参加の手法

計画策定にあたっては、審議会での公募委員選任、市民アンケート調査やパブリックコメントを実施し、市民の意見を反映した計画策定に取り組みます。

## 6. スケジュール

別紙スケジュール表の通り